

～海外派遣を通して～

大中山中学校 2年 しぶや 渋谷 はつみ 春摘

私は、海外派遣という素晴らしい体験をさせていただき、たくさんの刺激を受けました。この10日間は、あっという間で夢のような時間でした。

1日目 【日本出発・ホストファミリーと対面】

成田国際空港。いよいよアメリカへ出発というとき、一緒にホームステイする小石楓佳さんに、「お互いあんまり頼らないで頑張ろう」と言われ、気が引き締まりました。雨が降る中、12時間の長いフライトが始まりました。私は、2人でホームステイするという心強さから、日本を離れるということに対しての不安はあまりなく、飛行機の中ではぐっすりと眠ることができました。

「アメリカについて」という実感も湧かないまま入国審査が始まりました。入国審査は厳しく怖いという思いがあり緊張と不安で一杯でした。しかし、審査官が微笑みかけてくれて質問も1つしかなく、思い描いていた堅苦しいものとは違って驚きました。

コンコード・カーライル高校 (CCHS) 到着。ホストファミリーのジョンさん、ジュードさんに出会いハグをしました。家に向かう最中、車の中から見える景色にとっても感動しました。私たちに1つの大きな部屋を使わせてくれました。その部屋のあまりの大きさに驚き、私たちはとても興奮しました。

2日目 【コンコード・カーライル高校 (CCHS) 初登校】

5時50分に起床の予定でしたが、時差ボケのせいか3時50分に起きてしまいました。頭が痛く、とても気持ちが悪く、学校へ行く車の中で寝てしまいました。学校につくと、沢山の人がお菓子や飲み物を口にしてのを目にし「アメリカだ」と思いました。校内中を見学すると、やはり築4年というだけあってすべてが新しく、見たこともないような設備ばかりでした。

学校の帰り、DUNKIN'DONUTS (ダンキンドーナツ) へ行きました。日本でいうミスタードーナツのようなものでした。注文をするとき、何が何だか分からなく、あれが食べたいということを指で指して示すことしかできませんでした。味は日本と変わらずにとっても美味しかったです。

夕食は、GINGER というお寿司屋さんへ行きました。店内は日本を基調とした装飾品がたくさんありました。私は人生で初めてカルフォルニアロールを食べま



人生初のカリフォルニアロール

した。テレビで見たカルフォルニアロールは自分の口には合わないと思っていましたが、実際に食べてみるととてもおいしかったです。お寿司のネタはとても新鮮で、クオリティの高さに驚きました。

3日目 【ワークショップ・部活見学】

今日はカフェテリアで日本文化紹介として高校生は茶道、中学生は折り紙、けん玉、書道を紹介しました。私は、大金風咲さんと小石楓花さんと書道を担当しました。序盤は客足もまばらで会話にも悪戦苦闘しましたが、終盤に差し掛かると徐々に客足も増え「やるしかない」という思いで私たちも誠心誠意努め、最終的には沢山の人が来てくれて大成功に終わりました。私は、けん玉でも活躍することができました。他の2人はけん玉の経験がなかったので、けん玉が得意な私がお手本を披露させてもらいました。来てくれた人たちにけん玉をやって見せるとみんな驚いて興味を持ってくれました。得意なことが一つでもあり役に立つことができると本当に良かったなと思いました。

ホストファミリーのお迎えが来るまでの間、学校の部活動を見学しました。普段見ることができない部活、身近にある部活でも日本とは違う迫力がありました。

4日目 【ラジオ・テレビ出演 オールドノースブリッジ・ウォールデンポイント】

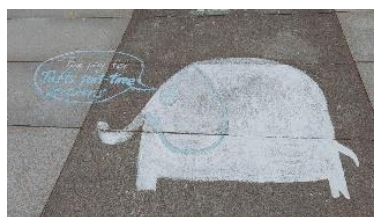
ラジオ・テレビへの出演はとても緊張しましたが、このような経験は後にも先にもないと思ったので、楽しもうと思ったら、なんとかやり切ることができました。

オールドノースブリッジ、ウォールデンポイントは共に歴史が深く、実際に見ることで調べただけではわからないことを感じるすることができました。正に、壮行式で雨澤教頭先生がおっしゃっていた「百聞は一見に如かず」だなと思いました。

5日目 【ポットラックパーティー・ホストファミリーとお出掛け】

今日は、みんなの家族が集まりました。大人の方々とも久々に会うことができ少しほっとしました。出国前から練習していた「イカ踊り」はとても楽しかったです。ホストファミリーも楽しんでくれたようです。

ホストファミリーの娘さんのサラに会いに行きました。サラは Tufts 大学の寮で過ごしていました。象をシンボルとしているとても素敵な大学でした。サラと合流した後、近くで行われているお祭りへ行きました。そこら中からいろんな音が聞こえてきました。見に行くと何人かの人がトランペットやサクソなど陽気に演奏していました。あの賑やかな雰囲気がとても好きでした。そこでは、反トランプのちょっとしたデモ活動が行われていました。ホストファミリーに「トランプのことをどう思う?」と聞いてみたところ、頭の横で指をくるくると回し「Crazy」と言っていました。テレビで見たようにや



はりトランプはあまり受け入れられていないのだなと思いました。

6日目 【リンゴ狩り】

今日は、佐々木瑠那さんのファミリーと一緒にリンゴ狩りへ行きました。車での移動の際、窓を全開にして大音量で音楽を流していました。普段このようなことはできないのでとても楽しかったです。瑠那さんのファミリーの友達も、日本語を楽しそうに使っていて、日本の漫画についてもたくさん知っていました。農園につくと沢山の木があり、そこら中からリンゴの香りがしていました。リンゴを一つもぎ取ったら、そのリンゴはとてもおいしそうとは言えないものでした。すると、瑠那さんのファミリーが「捨てていいよ」と言ってくれました。私は思い切って捨てました。この豪快さに「アメリカ」を感じました。歩きながらリンゴを食べるという経験もでき、とても楽しかったです。

7日目 【ホストファミリーと過ごす最後の時間】

「料理を披露する」という約束の最終日が来ました。ちらし寿司、手巻き寿司、お味噌汁を作りました。余った材料で漬物も作りました。ジョンが帰宅し、今日はジョニーも揃い、みんなで一緒に最後の夕食を共にすることができました。ジョニーは、お寿司が大好きなため何回もお代わりをしてくれました。ジョンは気を使ってくれているのか、あまりおいしくない漬物を「好きだ」といってお代わりしてくれました。すごく優しさを感じました。

リンゴ狩りで分けてもらったリンゴを使ってアップルパイを作りました。ホストファミリーとの共同作業はとても楽しかったです。出来上がったアップルパイは明日の朝食食べるということで、帰りの荷物のパッキングもあるからあまり会話も出来ずに自分たちの部屋へ戻りました。

8日目 【コンコード出発・ニューヨークへ】

今日の朝ご飯は、私が一番好きだったチーズトーストでした。十分に味わいました。昨夜作ったアップルパイは今まで食べたどのアップルパイよりも美味しかったです。普段食べるものは甘いリンゴの上に薄いパイ生地がのっているものばかりでした。しかし、このアップルパイはリンゴの酸味が利いて上には砂糖や麦、アーモンドプードルなどを使った甘いものがのっていて、日本では食べたことがなくとても美味しかったです。

楽しい時間はあっという間で、辺りはすでに薄明るくなってきたので、予定より早い時間に家を出ました。ジュードとハグをし、別れを惜しみました。最後の車での移動中、ホストファミリーと過ごした6日間のことを思い出しました。マクドナルドを **Make donut** と聞き間違えて朝から2人で大笑いしたこと、折り紙で兜や蛙と一緒に作ったこと、学校帰りに寄ったアイスクリーム屋さんで頼んだキッズサイズのアイスがめちゃくちゃ大きかったこと。毎日がかけがえのない時間でした。

ニューヨーク行きのバスに乗る前、ジョンに「Thank you for sharing your world」（あなたの世界を共有してくれてありがとう）と伝えました。ジョンは抱しめてくれました。

とても寂しかったです。バスから大きく手を振ってお別れしました。

ニューヨークに入るとビル群に囲まれ、四方八方に人がいてとても賑やかでした。タイムズスクエアでは何が起こるかわからないので、常に周りを意識していました。夜のタイムズスクエアは、看板の電飾の明かりがすごく、夜の暗さを感じさせないほどの明るさでした。

9日目 【国際連合・自由の女神】

国際連合本部の前では、加盟国の国旗が風にたなびいていました。建物に入るにあたっては持ち物検査がありました。いろんな国から大事な人達が集まるからこそ、この厳重さは必要なのだと思いました。普段会議が行われているところに実際に足を踏み入れることができました。会議は行われていなかったものの、緊張感のある雰囲気でした。

リバティ島では自由の女神像の台座まで登ることができました。階段で登ったためとても疲れました。台座から眺める景色は、とてもきれいでした。程よく風が吹いていて心地よかったです。自由の女神は有名な観光地ということだけあって、日本人も結構いて安心しました。自由の女神は、テレビで見たままでした。しかし、間近で見ると迫力がすごかったです。



10日目 【アメリカ出発】

「今日で終わりか」という思いと「久々に日本だ」という思いがありました。持ち物検査は、どこの空港よりも厳しかったです。

11日目 【日本到着】

羽田空港到着。周りに日本人がたくさんいることに安心しました。ホテルの夕食は「とんかつ」でした。お米とお味噌汁がとても美味しかったです。

まとめ

私は、この海外派遣で人の温かさにふれる場面がたくさんありました。言葉が通じなくても、解ろうと努力してくれました。私が何かを伝えようとしていると、ずっと待っていてくれました。フライ家のファミリーになることができ本当に良かったです。

今回、このような貴重な体験ができたのは訪問団のみんなを始めとした皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。